

の振興により地方都市の魅力の一つとして都心地域に盛り場性をいかにつけ加えていくかが課題と言えよう。

豪雪地域の地域性に関する地理学的考察

—新潟県小千谷市を中心として—

吉田章子

新潟県は全国でも有数の豪雪地域となっているが、その中でも魚沼地方はことに雪深いことで知られており、3～4mの積雪をみることもまれではない。したがって、この地域の住民の冬期の生活は“雪”によって大きく支配されていると言ってよいだろう。つい最近まで、積雪は雪国の交通と産業をマヒさせ、生活を凍結させてきた。日本で雪についての本格的な研究が始まってから、まだ40年少々しかたっておらず、さらに、雪国における冬期の生活マヒを積極的に改善する動きがおこったのはごく最近のことである。そこで、本論文では、雪に対する労力と生活の記録を記すことによって、少しでも豪雪地域の地域性というものを知る手がかりとなすことを目的とした。

研究方法としては、各種文献の他、現地でのフィールド調査および魚沼地方の3つの高校にお願いしたアンケート調査の結果を資料とした。

ひと口に豪雪地域といっても、都市もあれば農山村もあり、積雪の状態も様々で、雪による障害もまた一様ではない。小千谷市においても、市街地では機械力による道路の除雪がすすめられ、流雪溝や消雪パイプ等の消雪設備も整って、冬期でも車輛交通が可能となっている。一方、雪害対策の遅れている山間地域では、今なお道路を開くのは人力による道つけに頼り、様々の生活上の不便を強いられている所が多い。

アンケート調査によれば、住民は雪国を「土地に愛着はあるが住みづらい。」と考えているという結果がでたが、実際、雪がこい、雪掘り、道つけ等にかかる費用や労力は雪国の生活における大きな損失である。その他、産業や交通の面でも、雪は決してプラスの要素となっているとは言えない。

しかし、深い雪の中で冬をすごしてきた豪雪地域における長い歴史は、雪国独得の民俗をつくりあげてきたし、これからも雪が降り続くかぎり、雪は地域住民の冬期の生活の基盤となっていくであろう。

道路除雪、雪おろし、冬期の出稼ぎと、雪による生活の困難さはまだまだ山積みに残されている現在、豪雪地域の住民は、これら克服しなければならない多くの課題と積極的に取り組んでいかなければならないと感じる。

横須賀市における都市化の特徴

和田直子

(1) 目的

横須賀市は三浦半島の中央部を占める人口40万人の都市である。戦前は一貫して軍都としての道